

ワインを知ろう、自分で造って!

その③

～ 土から始めるルンズ・アンフォーラワイン®10年講座 ～

吉田しのぶ

2015年の「GTMLレポート冬号」と共にスタートした、体験型生涯学習講座「ルンズ・アンフォーラワイン作り」も早いもので1年になります。

今年は久住高原の植物達が芽吹き、農場いっばいに春 lindou が咲く4月半ば、熊本と大分を大地震が襲いました。幸いにも農場の被害はわずかでしたが、ゴールデンウィーク前に完成予定だったブドウ畑に点在する建造物（ルンズのおうち）は指揮官の大工さんの被災により、中断せざるをえなくなりました。

しかし、植物達は大丈夫。というより地震後から成長スピードが加速したように見受けられます。前号でご紹介しました「シオヒタシブドウ」（仮称）は、久住高原の気候に合っているようで、元気にスクスクと成長しております。

香川大学から農場へ里子にきた時点では、名もない枯れた小さな枝のようでした。「これが苗!?本当に育つんだろうか...?」。

育苗ポットに植えた時はとても不安でしたが、1ヶ月半で展葉を始め、5月下旬には育苗ポットから苗床に移植。6月～7月にかけての豪雨にも負けず、8月は記念すべき初結実も見られました。



香川大学付属農場から届いたばかりの「シオヒタシブドウ」。(2016/3/8)



熊本・大分を襲った大地震の直後に展葉を始めた「シオヒタシブドウ」。(2016/4/19)

ハートの葉っぱの形が特徴です。

名前の仮称は坂本龍馬とおりがようが新婚旅行で行った場所「塩浸温泉」からきています。



記念すべき初結実。(2016/8/6)



建設途中の「ルンズのおうち」。(2016/4/29)

地震発生後は、避難生活を強いられている方や子ども達に農場を開放。



勢いよく成長している「シオヒタシブドウ」(2016/8/6)

今年の夏は、福井県池田町の農業者仲間から「ホーリーバジル」の苗と種をいただきました。

「玄関にトゥルシー（ホーリーバジル）をかまえる家は聖地なり死神の使者はかよように家に入ること叶わず風はトゥルシーの香りを運びて、辺りを浄化する。」

サンスクリット語でトゥルシー（比類なきものという意味）の名を持つホーリーバジルは、インドでは古くから不老長寿の薬草として神の化身とたたえられています。

ルンズ・ファーム「童心回帰農場・TAKETA」のホーリーバジルは、物語ゴマより小さな種を蒔き、20cmにも満たない苗を植えるところからスタートしました。

将来はホーリーバジルの垣根で農場全体を囲んだら、どんなに素敵でしょう！



ホーリーバジルの種を微生物入り液に浸け暫くすると、カエルの卵のように膜をはり自ら水分を蓄えました。



小さな苗を小さな手で植えてくれました。
(2016/7/12)



ポットに2~3粒の種を播種しました。
(2016/7/12)



作業終了後は草スキー。
ぶどう畑になる傾斜を上るのは良い運動になります。



ホーリーバジルは1ヶ月半弱でここまで育ちました。
(2016/8/21)

私たちはルンズ・アンフォーラワイン造り講座を通して、未来の地球を担う子どもや若者たちには人の命を育む農業の尊さを、現代社会で疲弊した人たちへは心の蘇生を。そして社会に向けて、自然に対しての「畏敬」と「愛」を持つことの大切さを発信しながら、これからも10年20年30年先の光に向かって夢を耕し続けていきたいと思えます。

ルンズの理念

「積善（無形の財産）と生産（無尽の財産）の農業の実践」

1. 食の自給なくして国の自立はない
2. 食という字は、人に良いと書く
3. 生きること学ぶことに困窮する子供たちを支援します
4. 飛躍しようと努力する人の滑走路となります
5. 食・農・自然に学び、人と社会を癒す農場となります
6. 食を、自給率ではなく自給力ととらえる社会にします

ルンズ・ファームホールディングス株式会社
農業生産法人「童心回帰農場・TAKETA株式会社」
吉田しのぶ

ホームページ：<http://www.luns.co.jp/>

吉田しのぶ（よしだしのぶ）プロフィール

生年月日：1957年9月10日

ルンズ・ファームホールディングス株式会社 代表取締役

農業生産法人 童心回帰農場・TAKETA株式会社 代表取締役



- 生まれも育ちも熊本の、体育会系「肥後の猛婦」。
- 幼稚園教諭、モデルを経て文化人類学者と結婚。
- 八重山諸島・アメリカ・北海道・福岡と移住を続け、40才で卒婚。
- 人生のリセットで単身地球一周の船旅に出る。
- 帰国後は東京と熊本で馬肉料理店女将として勤務。
- 2013年秋、ファーマー・永澤徹氏との出会いで「これからの日



本に必要なのは農業だ！」と気づき、飲食業から農業の世界に飛び込み現に至る。

- 人生のモットー「一日は一生の縮図」